



みんなでつくるばんどう未来ビジョン 各種政策に取り組んでいます

財政健全化政策 行政のスリム化・未来に負担を残さない財政改革

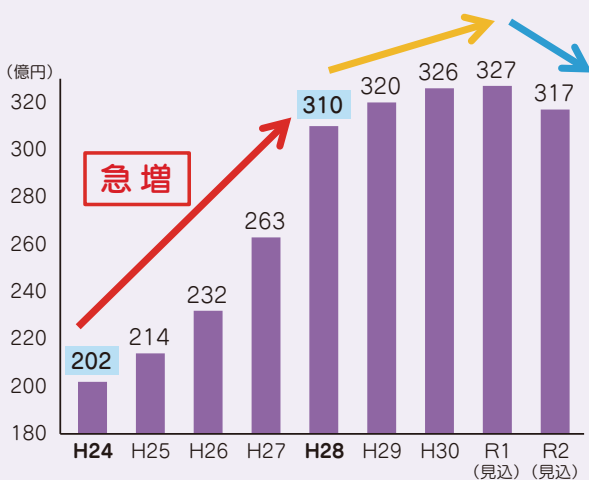
坂東市では「みんなでつくる」という理念のもと、市民のみなさんからお預かりした貴重な税金を、ご期待に寄り添う使い方に転換すべく、様々な改革に取り組んできました。

限られた財源のなかで選択と集中を行い、今の坂東市に本当に必要な事業に財源を振り向け、未来に負担を残さない持続可能な財政運営をしています。今月号では、市の財政状況と財政改革についてお知らせします。

●市の財政状況

1. 地方債現在高の急増

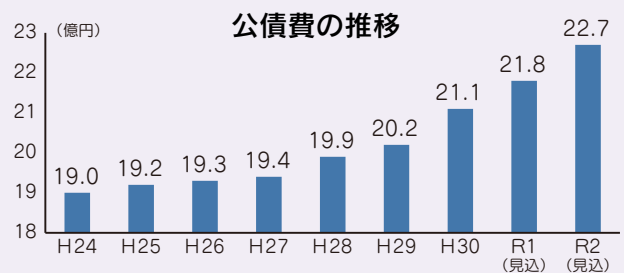
近年の大型建設事業（庁舎・その他公共施設）への投資により、地方債現在高は、平成24年から28年まで急増し、以後300億円を超えている状況です。



2. 義務的に必要な経費の増加

①公債費（返済費用）の増加

近年急増した地方債（借金）は、**3年または5年間据え置きが条件で、今年度から返済が本格化**するため、**公債費が増加**しています。



②社会保障費（医療・福祉）の増加

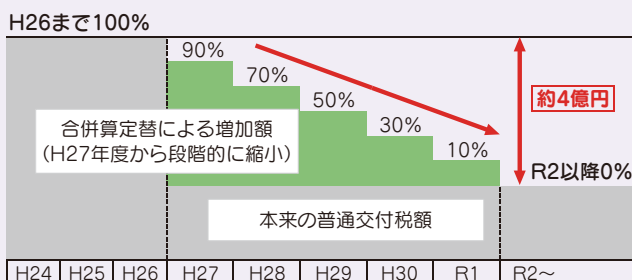
本市が負担する社会保障費は、平成26年度は**64.8億円**でしたが、30年度は**70億円**と約**5億円**増加しています。今後も医療や福祉の費用増加により、更なる財政負担が見込まれます。

3. 地方交付税（一般財源）の減少

地方交付税は、市町村の財政力等に応じて国から配分される財源です。

合併後の市が不利益にならないように、合併後10年間は特例的に計算（合併算定替）されました。その後、5年間で段階的に縮減され、今年度から通常の計算となりました。

平成26年度から約**4億円**が減少し、今年度は**37.1億円**となる見込みです。



4. 公共施設改修経費の増加

以前は「新たにつくる」に焦点があたる傾向でしたが、今後は保有財産を**費用対効果の視点も踏まえ、適切に維持管理していく時代**です。これまで長年未改修であった教育、福祉関連施設が多く、**長期的視野のもと財政負担等を考慮した改修や長寿命化を図る必要**があります。



● 財政改革

1. 公費負担の改革

① イベントの見直し

5,895 万円 削減

平成 28 年度と 29・30 年度決算額の差額累計

※見直しを行わなかった場合との比較

- まつりの統合など 28 件の見直し

単に経費削減をただけではなく、**内容の充実**を図るとともに、**市民ボランティアスタッフの方々の負担軽減**を図ることができました。



▲ 昨 year 大盛況だった古城まつり

② 公有財産管理の見直し

5,821 万円 歳入の確保

(平成 30 年度・令和元年度)

- 未利用地を公募により売却

③ 補助金の見直し

2 億 3,832 万円 削減

(平成 29・30 年度決算による累計)

- 全 140 種の補助金を見直し

④ 民間委託等の見直し

約 6,000 万円 節約(平成 30 年度)

- 市の業務に係る委託費の見直し
特に上下水道事業の包括的民間委託導入の中止と委託内容の精査により、**委託料の節約と事務の効率化**を図ることができました。

2. 予算編成改革

① 市債発行額の抑制

- 当初予算において**借入額(起債額)を返済額(償還額)以内に抑制**することにより、借金の残高を約 10 億円削減しました。

$$21 \text{ 億円 (返済額)} - 11 \text{ 億円 (借入額)} = \Delta 10 \text{ 億円}$$

② 予算計上・編成ルールの見直し

- 予算編成における工事請負費と委託料の算出については、従来は任意での見積もり徴収となっていました。2 社以上から徴収したことにより、仕様書の精査や見直しが可能になり、見積内容の精度を高め経費の削減につながりました。

3. 歳入の確保

① 国・県の補助金の活用

- 補助率の高い交付金の選択により、市の財政負担を最小限におさえ、小中学校エアコンや放課後児童クラブ施設の整備が早急に実現しました。

② 様々な手法を用いた歳入確保等

- 市役所 1 階広告付き案内地図板(右写真)、ふるさと納税、広告付き子育てガイドブックなどでも財源を確保しています。



これらの財政改革により得られた財源を、第 3 子以降の学校給食費無償化、18 歳までの医療費助成などの教育・子育ての充実、運転免許返納者支援、介護施設整備や生活に密着したインフラ整備など、各種政策に活用しています。